施設概要

（令和４年４月１日現在）

施設名		開館時間	
青少年女性センター （福祉センター内）		午前９時～午後１０時	
所在地	〒２７０-１４１５ 白井市清戸７６６-１	併設施設	白井市老人福祉センター 白井市就労支援継続B型事業所　みのり
TEL	０４７-４９２-２０２２	FAX	０４７-４９２-２０２１
メール	fukushi-center@bz04.plala.or.jp		
休館日	日曜日・祝日 １２月２９日～翌年１月３日	駐車場	60台
職員構成 R２年４月現在	センター長1名　事務職1名　（非）事務職2名　用務員1名 合計5名　（老人福祉センター常務兼務）		
貸出施設	１時間あたりの施設使用料（社会教育認定団体は２分の１）		

施設名	定員	９：００～22：００	付帯設備
研修室	36 名	250 円	ビデオ・テレビ・ピアノ 机１２台・椅子３６脚
会議室	36 名	250 円	机１２台・椅子３６脚
調理室	36 名	7220 円	調理台６台・椅子３６脚
レクリエーションホール	139 名	970 円	バトミントンコート２面 バレーボール１面・卓球台

貸し出し可能備品	

令和3年度　公民館等団体別利用状況
（青少年女性センター）

種別	青少年		成人		女性		高齢者		その他		個人		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	1	30	48	463	17	127	8	71	7	87	5	15	86	793
5	7	237	42	408	13	78	7	53	15	187	7	18	91	981
6	12	307	57	639	16	112	7	46	14	170	8	28	114	1,302
7	15	357	51	512	17	128	13	67	18	230	13	70	127	1,364
8	23	357	35	375	19	207	6	31	15	171	15	102	113	1,243
9	9	131	50	447	14	100	7	53	16	191	8	34	104	956
10	4	35	53	450	16	106	9	68	25	388	6	11	113	1,058
11	5	86	46	433	16	105	10	78	20	253	8	33	105	988
12	5	79	53	447	11	75	6	53	16	147	2	2	93	803
1	7	63	44	403	12	74	7	59	8	106	2	18	80	723
2	9	102	58	553	11	69	8	56	7	72	3	14	96	866
3	17	259	62	586	17	129	8	55	6	64	8	18	118	1,111
合計	114	2,043	599	5,716	179	1,310	96	690	167	2,066	85	363	1,240	12,188

令和3年度部屋別利用件数・利用人数

部屋名	利用件数（件）	利用人数（人）	年間利用率（%）
研修室	292	1,917	21
会議室	172	1,269	14
調理室	6	56	1
レクリエーションホール	770	8,946	57
合　　計	1,240	12,188	

令和３年度　青少年女性センター　事業報告

●白井市が目指す将来像（第５次総合計画基本構想から）

「ときめきと　みどりあふれる　快活都市」

●目指す将来像を実現するために（第５次総合計画後期基本計画から抜粋）

戦略１「若い世代定住プロジェクト」

・ゆとりある暮らしを感じるまちづくり
・働く場を生み出すまちづくり
・子育てしたくなるまちづくり

戦略２「みどり活用プロジェクト」

・「かかわれる農」のまちづくり
・みどりを育み活かすまちづくり

戦略３「拠点創造プロジェクト」

・都市拠点がにぎわうまちづくり
・地域拠点でつながる健康なまちづくり
・拠点を結ぶまちづくり

これらのプロジェクト（まちづくり）を実現するため、①「つどう」②「まなぶ」③「むすぶ」④「つくる」⑤「さがす」の公民館の代表的な５つの機能を生かした事業展開を行いました。

１．運営方針

（１）全体の運営方針

・男女共同参画の推進と地域交流

（２）分野別方針

	運営目標
家庭教育 （１）	①子育て世代が交流し悩みや不満を解消出来る機会をつくる。 ②子育てを通じて男女共同参画の推進を図る。 ③家事や育児に男性参加を促し固定的性別役割分担意識の解消を進める。
青少年教育 （２）	①市内の小学校を対象に、交流の場を設け仲間づくりを推進する。 ②市内の小学校を対象に、体験を通して学習し興味を促す。 ③中学生以上を対象とした、進路にもつながる体験学習の場を提供する。 ④子どもの自立と家事参加を応援する。

成人教育 （3）	①再就職を目指す女性にスキルアップやキャリアアップのための学習ができる機会をつくる。 ②自立が困難な母子家庭の母親やDV被害者の女性を優先し自立支援を行う。 ③人とのコミュニケーションが苦手等働きづらさに悩む若い女性の居場所つくり。 ④地域で自分らしく生き生きと働けるようワーク・ライフ・バランスを推進する。 ⑤女性のための生涯学習の場を提供する。 ⑥地域住民が集い、学ぶコミュニティーの場を提供する。
団体育成 （4）	①学習成果の発表の場を提供し、団体活動を支援する。 ②対人関係が苦手で中々社会進出ができない若い女性の自助グループを外に出る機会を与え社会参加の機会を提供する。

（3）令和３年度　重点に実施した項目（講座・事業など）

・地域住民が集う場を提供すること、市民との連携事業

2．青少年女性センター　講座等実施報告

（1）学習講座事業

対象	学級・講座名		回数	参加人数
家庭教育 （1）	子育て支援講座 （ハッピースマイル術）	①・②	3 回	10 人
	おやこ体験講座 （おやこチャレンジ）	③	5 回	38 人
	お父さんと子どものDIY講座	②・③	2 回	10 組
青少年教育 （2）	中高生向け体験学習 （受験に役立つ！記憶力アップ大作戦）	③	1 回	12 人
	中高生体験学習 （理系ナビ「光るタンパク質の不思議」）	③	回	感染予防対策のため中止
	小学生向け体験学習 （きっずトライ！）	②	2 回	23 人
	小学生向け体験学習 （親子バイオ実験教室）	②	2 回	25 人
	小学生向け （プログラミングで作って遊ぼう！）	②	2 回	10 人

成人教育 （３）	女性支援講座 （ストレスフリーライフ講座）	⑤	4 回	54 人
	女性支援講座 （女性のための起業講座）	④	4 回	7 人
	成人教育講座 （赤ちゃん安眠講座）	③・⑥	1 回	18 人
	成人教育講座 （パートナーに伝わる話し方講座）	③・⑥	1 回	7 人
	成人教育講座 （毎日の暮らしにすぐに役立つ防災講座）	⑤・⑥	1 回	9 人
団体育成 （４）	自助グループの育成 （こころのCafé）	②	2 回	3 人

（２）講座以外に行った事業

①サークル紹介動画の放映

②男女共同参画週間における周知・啓発活動

（6月：男女共同参画週間、10月：国際ガールズ・デーの掲示）

③居場所づくり「こころのCafé」の開催

④季節に合ったイベントの開催年5回（就労継続支援B型事業みのりとの合同事業）

⑤自助グループ「パステル」の活動支援(感染拡大防止のため中止）

⑥コミュニティーサロン「清戸の杜プチマルシェ」の開催（感染拡大防止のため中止）

（３）情報の提供

・講座・事業（イベント）情報は、広報しろい、社協しろい、HP、facebookページにて情報提供。

・各講座チラシを作成し、近隣スーパーや関係機関に配布、掲示。

・情報誌「清戸の杜」の発行（年12回）

・就労に関する情報提供。

（４）施設の提供

・団体活動の発表や掲示等活動への協力

・ご意見箱を設置し利用者からの意見や要望を聞き、改善や意見・要望について回答をすることで利用しやすい施設の提供

・青少年又は女性が団体またはグループで行う活動のための施設の提供

・青少年の健全育成に携わる者が行う研修、会議等のための施設の提供

・青少年の健全育成及び女性の社会活動に資する情報及び資料の提供

（５）「withコロナ」「afterコロナ」時代に向けた対応

・講座の開催時やセンター利用時の名簿記入の徹底、換気・消毒の随時徹底をはかる。

・利用者へマスクの着用及び手指消毒のお願いを徹底する。

・各部屋の定員を半分にするなど、密にならないように徹底する。

・出入口での手指の消毒、非接触型体温計の設置

講座・学習プログラム

講座名	子育て支援講座　ハッピースマイル術		
対　象	子育て中の母親		
募集人数	①12人　②10人　③15人	参加人数	10人

事業の課題と目標

課　題

・少子化、核家族、地域社会の変貌などが、子育て家庭の孤立化や子育て環境の悪化を招いている。
　子育ての悩みを相談できる相手や不安やストレスを解消できる場所があまりない。（新型コロナウイルスの影響大）

目　標

・母親同士が交流する場を提供し、子育ての孤立化をなくす。
・子育てに関する知識を高め、前向きで楽しい子育てをしてもらう。
・悩みや不安を気軽に相談できる場所があることを知ってもらう。
・子育てで疲れた心とからだを癒しリフレッシュしてもらう。

学習期間	令和３年１０月	回数	３回
学習場所	研修室、レクリエーションホール		

予　算	総額：　72,000　円 ※うち参加者負担金　1,500円×10人　円 内訳：講師料　72,000　円 その他事業費　0　円	決　算	総額：　24,500　円 ※うち参加者負担金　1,500円×6人　円 内訳：講師料　24,500　円 その他事業費　0　円
講　師	千葉県金融広報委員会　金融アドバイザー　黒田　千鶴子先生 キッズクラフト　加藤　久美子先生 JHA日本GREENハートセラピスト協会理事長　宮内　典子先生		

事業参加者への配慮等

・新型コロナウイルス感染拡大防止対策をした上での開催
　（事前の検温、マスクの着用、手指の消毒など）

事業の成果（課題や目標に対して）

・体の動かし方、普段の生活で取り入れたい動きを教えてもらい参考になったや普段と違う作業ができたや
　新しい知識をたくさん知れたなどの声を頂いた。

備　考

・保育なし（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	10月7日	「子どもに教えるお金のこと」 ～家庭で教えるお金の大切さ、上手な使い方、貯め方　子どもを「かしこい消費者」に育てよう～ 参加人数　７人	黒田先生	2022年より高校の新学習指導要領に加わる「金融教育」について学び、家庭でおお金の大切さを教えられるように学ぶ。
2	10月15日	「自分だけのハロウィンアルバムを作ろう！」 ～子どもの写真をプリントして飾ることによって自己肯定感が高まるということ『ほめ写』が注目されています～ 参加人数　６人	加藤先生	子どもの写真を飾ることによって、自分が大切にされているということを感じてもらう。 子どもの自己肯定感を高める。
3	10月26日	「１００年時代の未来が決まる！快適アンチエイジング法」 ～いつまでも若々しく、元気なママでいるために～」 参加人数　６人	宮内先生	心身ともに健康で長生きするために、ストレスに対しての自分の傾向をチェック。 下半身を強化し、筋肉瞭を保つためのエクササイズを学ぶ。

講座・学習プログラム

講座名	おやこチャレンジ		
対　象	親子（就学児以上）		
募集人数	４０組	参加人数	３８組

事業の課題と目標

課　題

・子育てをする期間は、仕事や生活に追われ子どもと一緒に何かをする時期は失われがちである。

目　標

・男女共同参画の視点から、なるべくお父さんが一緒に体験できる内容を企画し、父親が子育てに参加する機会を作る。
　また、この体験を通じて親子の絆を深める。

学習期間	令和３年６月～４年３月	回数	５回
学習場所	会議室、レクリエーションホール、LGV船橋		

予　算	総額：　35,000　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　35,000　円 その他事業費　0　円	決　算	総額：　48,000　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　48,000　円 その他事業費　0　円

講　師	１.森　嶺雲　２.太田有里沙　３.防衛省 自衛隊千葉地方協力本部 坪沼正樹 ４.日本オートキャンプ協会 植竹隆介、佐竹豊　５.プロゴルファー　忍田　佑介

事業参加者への配慮等

・ケガなど無く安全に参加できるように注意する。

・親子で楽しく参加ができ、親子で一緒に過ごすきっかけを提供する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・お父さんからの申込やお父さんと子どもとの参加が多く見られた。
　またアンケートでは、「楽しかった」や「良い時間がとれた」などの意見が多かった。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	6月12日	「書写講座」 参加人数7組15人	森先生	身近な文字を練習しながら親子のコミュニケーションを深める。
2	7月3日	「親子ヨガ教室」 参加人数9組19人	太田先生	親子でヨガを行い、コミュニケーションを深める。
3	11月20日	「自衛隊の仕事と防災講座」 参加人数１０組	坪沼先生	自衛隊の役割や仕事内容、 防災に役立つロープワークを学ぶ。
4	1月29日	「はじめてのキャンプ講座」 参加人数９組	植竹先生 佐竹先生	キャンプのマナーや、道具の使い方を学び、親子でのキャンプを楽しむきっかけ作りをする。
5	3月12日	「親子でゴルフを体験する」 参加人数5組	忍田先生	親子でゴルフ体験を通じて、コミュニケーションを深める。

講座・学習プログラム

講座名	理系ナビ「光るタンパク質の不思議」		
対　象	中学生、高校生		
募集人数	６人	参加人数	

事業の課題と目標

課　題

・学校の限られた時間数の中では多様な理科実験はできず、子どもたちの理科離れが進んでいる。

目　標

・富岡製糸場と製糸遺産群が世界遺産に登録され、注目されているカイコの最先端研究開発やバイオテクノロジーについて学び、実際に自分で実験することにより理科に興味・関心を持ってもらう。

学習期間	令和３年８月	回数	１回
学習場所	調理室		

予　算	総額：	11,000　円	決　算	総額：　0　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料　0　円
	その他事業費	11,000　円		その他事業費　0　円

講　師	農研機構　生物機能利用研究部門　　笹川由紀先生

事業参加者への配慮等

・密にならないように、机１台に対して１人の設定

事業の成果（課題や目標に対して）

備　考

・感染症予防対策のため中止

講座・学習プログラム

講座名	受験に役立つ！記憶力アップ大作戦		
対　象	中学生、高校生		
募集人数	１２人	参加人数	１２人

事業の課題と目標

課　題

・夏休みの時期は、今後の進路や受験に向けた勉強方法などに悩む生徒・学生が多いのではないか。

目　標

・「記憶」という視点から、学校での勉強に役立つ記憶法や、日常生活やこれからの人生においても役立つ記憶力について学ぶ。

学習期間	令和3年8月13日	回数	1回
学習場所	会議室		

予　算	総額：	11,000　円	決　算	総額：　7,000　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	11,000　円		内訳：　講師料　7,000　円
	その他事業費	0　円		その他事業費　0　円

講　師	コミュニケーションカウンセラー　高嶌幸広さん

事業参加者への配慮等

・講義と演習

・コロナ禍の開催であり感染防止に努め、４名程度のグループで演習を行う予定であったが個別の演習に切り替えた。

事業の成果（課題や目標に対して）

・受講動機は、１２人中９人が親に「親にすすめられて」であったが、終了後のアンケートでは、

・「新しい知識が増えた」、「暗記の仕方など記憶力アップにつながることが聞けた」等、前向きな感想がきかれた。

・記憶力を高めるには睡眠を十分にとることも大事であり、生活リズムを整える大切さを学んだ。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	8月14日	・記憶法には、繰り返す、関連付ける、物語にする、たとえる、リズムをつけるなど、８つの方法について指導 ・その中で、物語法を使って英語の1月から12月までを覚えるための「物語」を個別の演習で実施 参加人数１２人	髙嶌先生	記憶とは何か、記憶のメカニズムや記憶力を高める方法について、また勉強に役立つ記憶法や、日常生活やこれからの人生においても役立つ記憶力について学ぶ。

講座・学習プログラム

講座名	夏休みチャレンジ大作戦「きっずトライ！」		
対　象	市内在住の小学生		
募集人数	１２人	参加人数	２３人

事業の課題と目標

課　題

・学校区以外の小学生達の交流は、機会がないと交流が難しい。

・学校の授業以外にいろいろな体験ができる場が少ない。

目　標

・地域の小学生を対象に仲間づくりや道徳心を養う。

・交流する機会を与え、体験学習を通じて仲間づくりを広げる。

・興味を持ったことにチャレンジする行動力を育成する。

学習期間	令和3年8月5日	回数	2回
学習場所	会議室		

予　算			決　算		
総額：	11,000	円	総額：	3,348	円
※うち参加者負担金	0	円	※うち参加者負担金	0	円
内訳：講師料	11,000	円	内訳：講師料	3,348	円
その他事業費	0	円	その他事業費	0	円

講　師	株式会社アルファテクノ　黒澤佳弥さん

事業参加者への配慮等

・応募者がかなり多かったので講師に相談して午後の部を追加開催した。

・新型コロナウイルス感染拡大防止対策をして開催。

・講師の他に３名の社員の方と職員２名で、低学年の参加者をサポートした。

事業の成果（課題や目標に対して）

・普段できない体験をしたことで、「今度はこんなことをしてみたい」などのアンケートの回答が多く、チャレンジしたいという気持ちが見らえた。

・他の学校の参加者とも交流しながら、楽しんで受講していた。

備　考

・講師の他に３名の社員の方にサポートしてもらった

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	8月5日	・パソコンの仕組み ・パソコン分解パフォーマンス ・パソコン分解	黒澤先生 千葉さん 佐藤さん	パソコンの仕組みを学ぶ パソコンを分解する手順を学ぶ パソコンはどんな部品で出来ているのか、各部品の役割を学ぶ

講座・学習プログラム

講座名	親子バイオ実験講座		
対　象	市内在住の小学生とその保護者		
募集人数	２０組	参加人数	１９組

事業の課題と目標

課　題

・小学校の理科の授業において実験の数が減り理科離れが進んでいる。

・普段の生活の中にも理科に関係することが多々ある筆を知らない子どもが多い。

目　標

・理科の面白さは学校の授業だけではない。

・理科への関心や興味を高める。

学習期間	令和3年7月28日	回数	2回
学習場所	研修室		

予　算	総額：　10,000　円 ※うち参加者負担金　500円×20組　円 内訳：講師料　10,000　円 その他事業費　0　円		決　算	総額：　13,086　円 ※うち参加者負担金　500円×19組　円 内訳：講師料　10,000　円 その他事業費　3,086　円
講　師	ＮＰＯ法人くらしとバイオプラザ２１　常務理事　佐々義子先生			

事業参加者への配慮等

・紙の顕微鏡を組み立てて、タマネギの皮を観察した。助手が１名ずつ付き、講座をスムーズに出来る様に実験器具、調理器具の取り扱いに注意を払った。

事業の成果（課題や目標に対して）

・初めて見る紙の顕微鏡を一から各自で組み立て実際にタマネギの皮の細胞を観察する事で、子どもたちは理科実験に興味や関心を示し、楽しく学んでいた。

備　考

・ボランティア５名

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	7月２８日 午前・午後	① 細胞の顕微鏡標本（プレパラート）をつくる。 ・タマネギの皮に酢酸カーミンを細胞のうえにのせる。 ② 紙の顕微鏡を組み立てる。 ・タマネギの皮を観察する。 ③ 紙の顕微鏡について学ぶ。 ・紙の顕微鏡が発明された 参加人数　19組	佐々先生	一から紙の顕微鏡を組み立てタマネギの皮の細胞を目で確認する。 紙の顕微鏡が発明された意味を知ってもらう。

講座・学習プログラム

講座名	プログラミングで作って遊ぼう！		
対　象	小学生		
募集人数	10人	参加人数	１０人

事業の課題と目標

課　題

・小学校でプログラミング教育が取り入れられる中、小学生がプログラミングに早い段階から触れる機会が必要ではないか。

目　標

・プログラミングへの興味とプログラミングによって動く電子工作のものづくりの楽しさを経験してもらう。

学習期間	令和４年１月８日、15日	回数	２回
学習場所	会議室		

予　算			決　算		
総額：	43,000	円	総額：	25,433	円
※うち参加者負担金	1,000円×10人	円	※うち参加者負担金	1,000円×10人	円
内訳：講師料	33,000	円	内訳：講師料	0	円
その他事業費	10,000	円	その他事業費	15,433	円

講　師	電子工作研究会今井会長他４名

事業参加者への配慮等

・パソコンの操作、プログラミングの設計図、工作の組み立てとプログラムのアップロードなど本人が行うことを前提に、講師が必要に応じて指導・援助を行う。

事業の成果（課題や目標に対して）

・プログラミングや電子工作の組み立てに興味をもち、自分のペースで取り組むことができた。

備　考

・3年生以下は保護者同伴とした。当日は3人の保護者が同席した。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	1月8日	音と光のでる電子工作に取り組む。 ・マイコンボードやブレッドボード、LDEランプやブザー、抵抗器などの部品を組み立てる。 ・ノートパソコンでプログラムの設計図を見ながらプログラミングを作成。 ・それをマイコンボードにアップロードする。	電子工作研究会	プログラミングへの興味と電子工作のものづくりの楽しさを経験してもらう。
2	1月15日	・電源は電池から供給するプログラムをパソコンで作成して電池につなげる。		

講座・学習プログラム

講座名	お父さんと子どものDIY講座		
対　象	小学生と父または祖父		
募集人数	１０組	参加人数	10組

事業の課題と目標

課　題

・お父さんと子どもを対象に親子のふれあいを深める

目　標

・お父さんと子どもで一つのものを一緒に作ることで、お父さんとの思い出づくりや作る楽しさを体験してもらう。

学習期間	令和4年11月27日	回数	2回
学習場所	作業室		

予　算	総額：	11,000　円	決　算	総額：　8,509　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	7,000　円		内訳：　講師料　7,000　円
	その他事業費	4,000　円		その他事業費　1,509　円
講　師	神野工務店　神野　直孝さん			

事業参加者への配慮等

・ケガなど無く安全に参加できるよう注意する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・お父さんや祖父と子どもたちの講座を計画し、親子でふれあう機会を提供する事ができた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	11月27日 午前	ベンチ作り ～木製のベンチをDIYでつくりましょう１～ ５組	神野工務店 神野　直孝さん	ものづくりの楽しさを知ってもらう。親子でもの作りをしながら親子のコミュニケーションを深める。
2	11月27日 午後	プランター作り ～木製のプランターをDIYしてつくりましょう！～ ５組	神野工務店 神野　直孝さん	ものづくりの楽しさを知ってもらう。親子でもの作りをしながら親子のコミュニケーションを深める。

講座・学習プログラム

講座名	ストレスフリーライフ講座		
対　象	一般女性		
募集人数	①１２人　②１５人　③１０人　④８	参加人数	①１４人　②１６人③１５人　④９人

事業の課題と目標

課　題

・毎日の生活の中で何らかのストレスを感じている女性が多い。そのストレスを発散できずにイライラしたり、気分が滅入ったり、体調を崩したりしている。また、新型コロナウイルスによる様々なストレスも抱えている。

目　標

・日常生活において様々なストレスをかかえている女性のために、気分転換の方法やストレスを解消できる内容を提示し、ストレスのない生活を始めるきっかけ作りをする。

学習期間	令和３年１１月	回数	４回
学習場所	研修室、レクリエーションホール		

予　算			決　算		
総額：	66,000	円	総額：	48,070	円
※うち参加者負担金	1,500円×8人	円	※うち参加者負担金	1,500円×9人	円
内訳：講師料	66,000	円	内訳：講師料	48,070	円
その他事業費	0	円	その他事業費	0	円

講　師

日本成人病予防協会　両角佳子先生
運動健康指導士　根岸健一先生
国際若石健康法認定リフレクソロジスト　高階貴子先生
アロマインストラクター　河野真理先生

事業参加者への配慮等

・希望の講座に参加しやすいように個別申し込みが出来るようにした。
・お申込みいただいた講座になるべく参加できるように、人数を増員した。
・新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら開催した。（検温、マスク着用、消毒）

事業の成果（課題や目標に対して）

・アンケートの回答によると、「コロナ禍のストレスをなんとかしたいと思って参加した」「人間関係で悩む事があった」など様々なストレスを感じている方が多く見受けられた。この講座を受講して、「色々なアプローチでストレス解消を学べて良かった」という感想もあり、自分なりのストレス解消法を見つけてもらえたようだ。

備　考

・保育なし（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	11月9日	「ストレスと上手に付き合おう」～心とからだのセルフケア～ 参加人数　１２人	両角先生	ストレスとはどういうものなのか、ストレスによって自分はどんな状態になるのか、自己理解を深める。 ストレス状態の対処法を知る。
2	11月16日	「ストレスに負けない！免疫力を高めるストレッチ」～事理神経を整えて免疫力アップを目指そう！～ 参加人数　１５人	根岸先生	免疫力を下げる要因を知る。 免疫力を高める工夫として、ダイナミックストレッチ 、スタティックｽストレッチを教わり、ストレスに負けない心と身体作りを目指す。
3	11月24日	「リフレクソロジーで全身スッキリ！セルフケア講座」 ～リンパの刺激でデトックス！足裏から健康に！～ 参加人数　１０人	高階先生	足裏の反射区を刺激してデトックスをする。 自宅でも簡単にセルフケアが出来るように足もみの方法を学ぶ。
4	11月30日	「心地よい眠りに誘なうアロマ」～質の良い睡眠でストレス軽減、免疫力アップ～ アロマクラフト作り ★ピロースプレー ★マッサージオイル 参加人数　９人 自己負担金　1,５００円	河野先生	自分の好きな香りでアロマクラフトを作る。 アロマの働きにより質の良い睡眠がとれ、免疫力アップにつながる。

講座・学習プログラム

講座名	女性のための起業講座		
対　象	起業に関心のある女性、起業して間もない女性		
募集人数	１２人	参加人数	７人

事業の課題と目標

課　題

・再就職をめざす女性の就業が難しい状況にあり、働きたくても働けないと悩んでいる子育て中の女性や子育てと家事の両立が困難な状況にあり孤立する女性へのアプローチが弱い。

目　標

・いきいきと社会の中で活躍できるよう、子育てや家事との両立を紹介し、自分の出来ることを職に活かしてみる。

学習期間	令和３年１２月７日～１２月１７日	回数	４回
学習場所	会議室		

予　算	総額：	150,000　円	決　算	総額：　80,000　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	80,000　円		内訳：　講師料　80,000　円
	その他事業費	70,000　円		その他事業費　0　円
講　師	株式会社PLUS－Y　永田洋子先生			

事業参加者への配慮等

・講義、ディスカッション、個人ワーク、質疑応答

事業の成果（課題や目標に対して）

・起業を立ち上げている方も、これからという方も、講師のわかりやすい講義に大変満足されていた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	12月7日	女性のための起業・独立・開業の基礎知識 ・現在の起業の環境についての学び。 ・起業の夢を具体的なプランへの落とし込み。 　ワーク：起業プランシート （参加人数　6　人）	永田先生	好きなコト、やりたいコトで稼ぐためのビジネスプランを考える
2	12月20日	起業したい女性のための「お金」の話し ・起業の手続きや許認可・法律を学ぶ。 ・起業に関するお金について学ぶ。 （参加人数　3　人）	永田先生	起業の資金とマネープランを理解する。
3	12月13日	魅力を伝えるブランディングとプロモーション方法 ・ブランディングとプロモーションの基本。 ・自分の「強み」を見つけて磨こう。 　ワーク：強み発見ワークシート （参加人数　3　人）	永田先生	「強み」を磨いてセルフプロデュースする力を身につける。
4	12月17日	聞き手の心をつかむプレゼンテーション ・プレゼンテーションの基本。 ・実際にプレゼンテーションをやってみよう。 （参加人数　3　名）	永田先生	共感を得る伝え方で味方や仲間を増やす。

講座・学習プログラム

講座名	赤ちゃん安眠講座～ママもパパも笑顔になれる～		
対　象	市内の乳幼児およびその母親と父親		
募集人数	6 組	参加人数	6 組18人

事業の課題と目標

事業の課題と目標

課　題

・乳幼児の夜泣きや寝ぐずりで悩んでいる母親と父親への支援が必要ではないか。

目　標

・赤ちゃんの夜泣きや寝ぐずりに悩んでいる母親と父親に、赤ちゃんのより良い眠りを引き出すための方法や、男女共同参画の視点からの家族の役割、取り組みについて理解を深めてもらう。

学習期間	令和3年10月2日	回数	1回
学習場所	会議室		

予　算	総額：　20,000　円		決　算	総額：　16,560　円
	※うち参加者負担金　円			※うち参加者負担金　円
	内訳：　講師料　20,000　円			内訳：　講師料　15,000　円
	その他事業費　0　円			その他事業費　1,560　円
講　師	木津陽子さん（乳幼児睡眠アドバイザー）			

事業参加者への配慮等

・パワーポイントを使用しての講義と、参加者同士の懇談、質疑応答

事業の成果（課題や目標に対して）

・睡眠のリズムについてなど科学的な視点と、講師自身が子育てで夜泣きに悩まされた経験に基づいた話が分かりやすく、参加者の頷きが多くみられた。

・質疑応答では、父親からの質問も多くあり、子育ての大変さへの理解が深まった。また、父親の積極性が感じられた。

・グループディスカッションでは、参加者同士がすぐに打ちとけて、それぞれの悩みや工夫点など情報の交換が行われ、講座終了後に連絡先の交換をしている姿が見られた。

備　考

・授乳室を用意した。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	10月2日	講義 ・乳幼児の睡眠のリズム ・睡眠の悩み改善は生活リズムの見直しから 　グループディスカッション 質疑応答 参加人数　６組18人	木津陽子さん	赤ちゃんのより良い 眠りを引き出すための方法や、男女 共同参画の視点からの家族の役割、 取り組み について理解を深める。

講座・学習プログラム

講座名	言いたいことをさりげなく伝えよう！～パートナーに伝わる話し方講座～		
対　象	一般		
募集人数	10人	参加人数	７人

事業の課題と目標

課　題

・在宅勤務や定年退職など家庭で過ごす時間が長くなる夫と妻が、ちょっとした行き違いでイライラしたり、言いたいことが上手く伝わらなかったりすることがある。

目　標

・より良いコミュニケーションをとるための方法を学び、円満な家族関係を築くための一助とする。

学習期間	令和4年2月12日	回数	1回
学習場所	会議室		

予　算	総額：　64,000　円 ※うち参加者負担金　円 内訳：講師料　64,000　円 その他事業費　0　円	決　算	総額：　7,000　円 ※うち参加者負担金　円 内訳：講師料　7,000　円 その他事業費　0　円
講　師	髙嶌幸広さん（コミュニケーションアドバイザー）		

事業参加者への配慮等

・講義、ディスカッション、個人ワーク、ケーススタディ、質疑応答

事業の成果（課題や目標に対して）

・参加者の年代層は７０代から５０代、夫婦歴や男女にかかわらず「相手に言いたいことがうまく伝えられない」と課題を抱えている様子が見えた。

・参加者のアンケートでは、「普段の会話に生かせそうです」、「自分のコミュニケーションの傾向がわかりました」、「これからは、一息ついて言いたいことを言おうと思います」など好評を得た。

・募集定員１０人のところ７人の参加であった。今回のようなテーマはニーズがあると思われるが、そこにどう届けられるか、周知の仕方等検討したい。

備　考

・グループディスカッションの予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全体での討議や個人ワークに切り替えた。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	2月12日	講義・ディスカッション・個人ワーク、ケーススタディ 1．なぜ言いたいことが言えないのか 2．自分のコミュニケーションの傾向を知る 3．言いたいことをさりげなく伝える話し方	高嶌幸広さん	より良いコミュニケーションをとるための方法を学ぶ

講座・学習プログラム

講座名	毎日の暮らしにすぐに役立つ防災講座		
対　象	一般		
募集人数	12名	参加人数	9名

事業の課題と目標

課　題

・近年地震やその他災害が多い中家族や自分自身の身をどう守ったらいいのか不安に感じている。

目　標

・防災に関する知識を学び、いざという時に家族の命を守れるように知恵と技術を身に付けてもらう。

学習期間	令和4年3月1日	回数	1回
学習場所	研修室		

予　算	総額：	20,000 円	決　算	総額： 24,000 円
	※うち参加者負担金	円		※うち参加者負担金 円
	内訳： 講師料	20,000 円		内訳： 講師料 20,000 円
	その他事業費	円		その他事業費 4,000 円
講　師	あんどうりす			

事業参加者への配慮等

・講義、個人ワーク、質疑応答

事業の成果（課題や目標に対して）

・講師の方自身が阪神大震災被災体験をされているので、経験談等のお話も組み込まれていてとても分かりやすく、防災に関する意識を高めてもらうことができた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	3月1日	・災害時に役立つグッズの紹介 ・携帯トイレを体験 ・デコホイッスルの作成	あんどうりす	・災害が起きた時に、どんなグッズをもっていると役に立つのかを学ぶ。

事業活動

事業名	清戸の杜プチマルシェ		
対　象	どなたでも		
参加人数			
事業の課題と目標 課　題 ・コミュニケーションが広がるきっかけが少なくなっている昨今、地域でもサロン等の開設が見直しされている。 目　標 ・食を通じてコミュニティの輪を広げ、多様な世代の集いの場を提供 ・さまざまなワンデーショップで、気軽に楽しめる内容を提供			
期　間		回　数	
場　所			
事業参加者への配慮等			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備　考 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			

事業活動

事業名	男女共同参画週間における周知・啓発活動		
対　象	どなたでも		
参加人数			
事業の課題と目標 課　題 ・男女共同参画週間を機会に、男女共同参画にかかわる書籍や資料、掲示物をとおして男女共同の視点や意識、関心をもってもらう。 目　標			
期　間	令和４年６月～３月	回　数	３回
場　所	２階ロビー		
事業参加者への配慮等 ・２階ロビーに男女共同参画コーナーを置くことで、サークルで来られた方等にも気軽にご覧いただけるように配慮した。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・センターを利用される多くの方に、資料や掲示物をご覧いただいた。 （見て頂いた方にはシールを貼ってもらうようにした。）			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	6月23日～ 9月27日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の展示 （男女共同参画週間）	男女共同参画への啓発及び実施
2	9月28日～ 12月28日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の展示 （国際ガールズ・デー）	男女共同参画への啓発及び実施
3	2月24日～ 3月31日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の展示 （国際女性デー）	男女共同参画への啓発及び実施

事業活動

事業名	こころのCafé		
対　象	１５歳～３５歳の独身女性で人とのコミュニケーションが苦手な人		
参加人数	２名		
事業の課題と目標 課　題 ・人とのコミュニケーションが苦手で引きこもり気味になっている若い独身女性が増えてきている、１０代では登校拒否となり、就職をしたとしても離職を繰り返したり社会になじめない状況にある。また、独身女性が無職と分類されず、家事手伝いとして、分類されているため、重要視されてきていないのが現状。 目　標 ・引きこもりにならないように、外に出る機会をつくり、人とのコミュニケーションを取れるように同じ境遇の女性と自尊心を高めていく。			
期　間	令和４年１月～３月	回　数	２回
場　所	研修室		
事業参加者への配慮等 ・講座で知った個々の情報は、終了したら人には話さない。ここを安全・安心な場とする。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・体調を崩し参加は難しいが、電話やメールで繋がることで前向けになる人もいるので、欠席連絡であっても共有する時間を大切にしていく。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	2月19日	近状報告、相談 （参加人数　２人）	外出の機会を作り、みんなで話をしながら、共有を深める。
2	3月26日	近状報告、相談 （参加人数　１人）	
3		※上記の日程以外にもメールでの近状確認を実施	

事業活動

事業名	福祉センターフェスティバル		
対　象	どなたでも		
参加人数			
事業の課題と目標 課　題 ・活動サークルの発表の成果の場を提供 ・地域福祉団体の福祉活動を知ってもらう。 目　標 ・地域住民との交流を深める。 ・福祉について理解してもらえるイベントにする。 ・世代とわず多くの方に参加してもらえるイベントにする。			
期　間		回　数	
場　所	福祉センター館内		
事業参加者への配慮等			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備　考 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	10月1日～	・福祉センター利用サークル活動紹介動画の放映対象：白井市福祉センターの利用団体　撮影時間：１サークル１分～１分半程度　動画上映日：１０月１日～　参加団体：１４団体	フェスティバルは中止となったが、紹介動画を流すことでサークルの成果の場の提供や各サークルの雰囲気を来館した方に知ってもらう。
2		※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、フェステバルは中止となったが、その代替としてサークル活動紹介動画の放映を行った。	